

中国パンダ事情 ～中国と海外を結ぶ架け橋～

中国の動物といえばパンダです。日本では2023年2月に上野動物園のシャンシャンをはじめ4頭のパンダが中国に返還され大きな話題となりました。中国でもパンダは非常に人気が高く大切にされているとともに、他の動物にはない特別な役割を果たしています。

◆中国にとってのパンダ

パンダは、過去の乱獲や都市開発等が原因でその数が減少し絶滅危惧種に指定されています。2021年時点で、野生のパンダは中国内陸部の四川省を中心に約1,800頭生息しているほか、四川省の複数の保護機関等に約600頭飼育されています。この度日本から返還されたパンダ4頭も同省の保護機関に移送されています。

中国語で「大熊猫」と呼ばれるパンダは、熊のようなフォルムと猫のような穏やかさから国民的人気がある動物で、中国では国宝とされています。生息数が少なく保護対象であるため、日本と同様に特定の動物園などでしか目にすることはできません。そのため上海市内の動物園では、園内の目玉エリアで飼育されているパンダを一目見ようと常に人だかりができています。また中国ではパンダ記念硬貨が定期的に発行されています。1982年から40年以上に渡り発行されていることから、根強い人気があります。



四川省成都市の
パンダ保護研究センターの様子



2023年版
パンダ記念硬貨

◆パンダ外交

愛くるしい見た目とその希少性から人気が高いパンダですが、海外との外交上の役割も持ち合わせています。1941年に第二次世界大戦下の支援に対する謝意などを目的にパンダが米国に贈呈されて以来、これまで世界19カ国にパンダが贈られてきました。現在はワシントン条約で国際取引が規制されているため、中国から貸与される形で海外に渡っています。こうしたパンダを活用した外交活動はパンダ外交と言われ、中国のイメージ形成に効果を発揮してきました。

パンダ外交はこれまで、友好条約締結の節目の年や、貿易協定締結などといった外交成果に合わせて展開されてきました。昨年10月には、サッカーワールドカップの開催を控えたカタールに対し、中東では初めてパンダが貸与されました。今後は中国の経済圏構想「一带一路」の参加国においても、外交成果に基づくパンダ貸与の機会が増えるかもしれません。

◆日中友好の架け橋

シャンシャンが返還されたニュースは中国現地でも報道されています。中国外務省が、シャンシャンを可愛使者（可愛い使者）と表現し「日本の人々がシャンシャンやその仲間たちに会いに中国に来ることを歓迎する」とコメントするなど、明るい話題として採り上げられていました。

他方日本の東北地方では、仙台市が八木山動物公園へのパンダ誘致活動に取り組んでいます。2023年は日中平和友好条約締結から45周年の記念の年になりますので、こうした活動が進展し、東北地方においても可愛い使者パンダを通じた日中交流が拡大していくことを期待したいです。
(上海駐在員事務所 船田 美遥)

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。
https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/

本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。